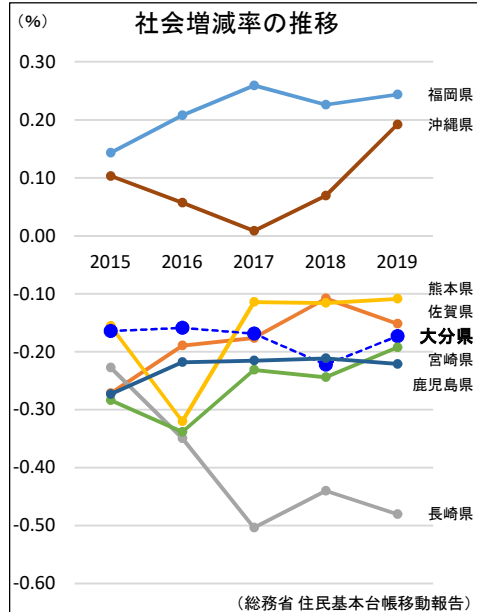
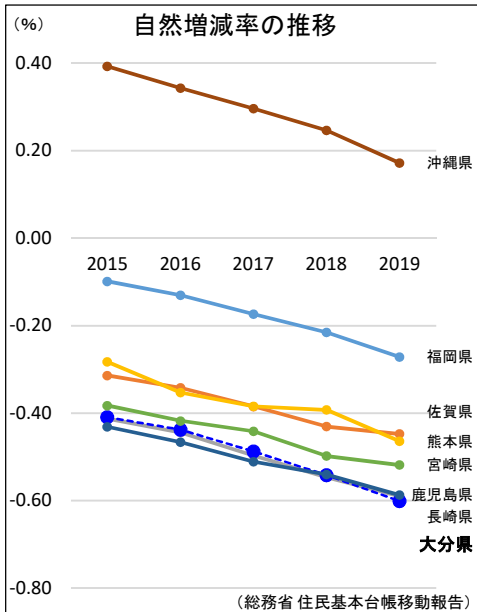
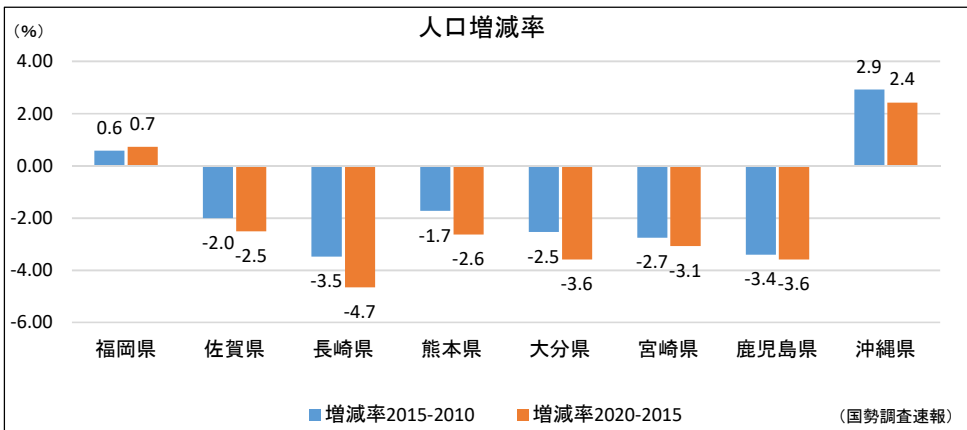


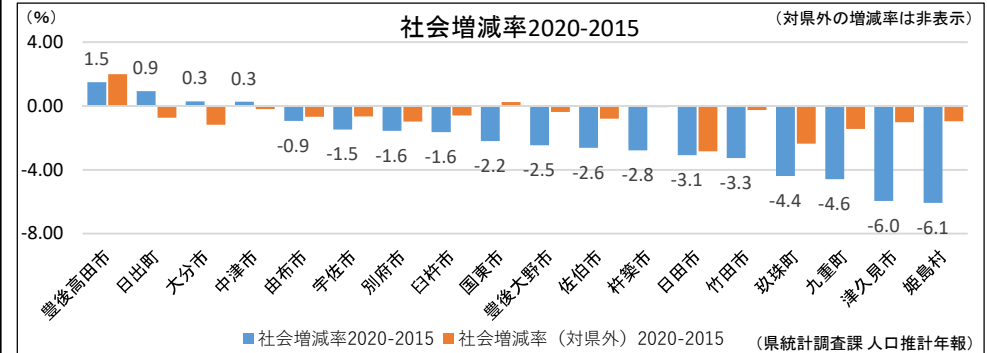
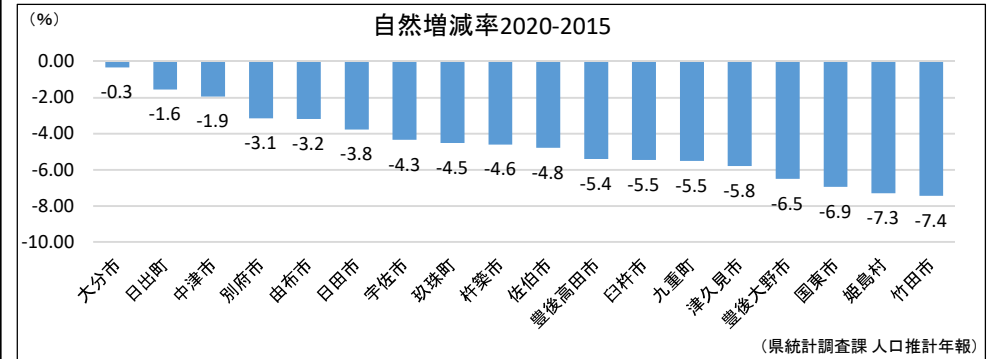
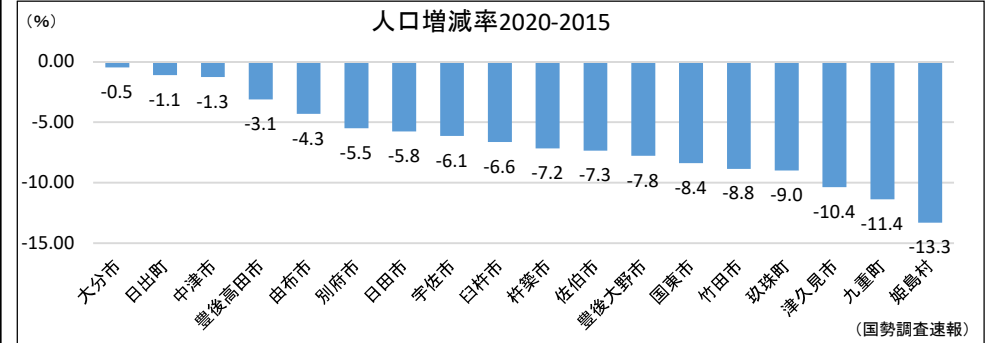
令和2年国勢調査結果（速報）について

- 大分県の人口は、1,124,597人（対平成27年比 △41,741人、△3.6%）→平成以降で最大の落ち込み
- 総人口は、1億2,622万7千人（対平成27年比△86万8千人、△0.7%）→大都市集中進むも、コロナで東京一極集中に変化の兆し
- 九州では、福岡と沖縄を除く6県で減少（人口数は第6位、人口増減率は第7位）
- 県内市町村は、全市町村で減少（企業誘致や移住促進で成果を出している自治体の減少率が低い）

九州各県比較



県内市町村比較



令和2年10月～令和3年5月の人口動態について

○令和2年10月1日の実績：1,124,597人 → 目標1,126,220人を△1,623人下回った。
 ○令和3年 6月1日の実績：1,117,176人 → 日本人の社会増減は前年比+891人となったが、出生数の減少（△176人）に加え、入国制限を受けた外国人の減少（△1,873人）があったことが、目標を下回った主要な要因。
 → 8ヶ月で、△7,421人の減少（自然増減 △5,535（出生4,797、死亡△10,332）、社会増減 △1,886）

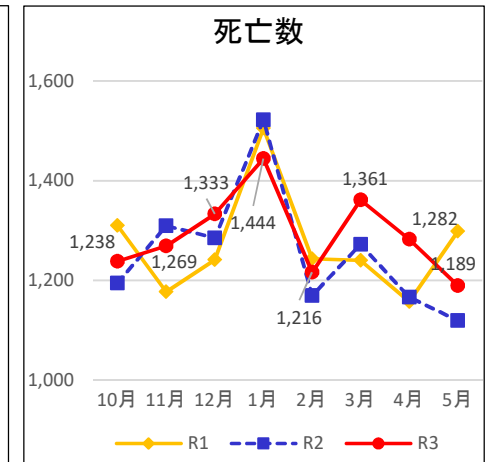
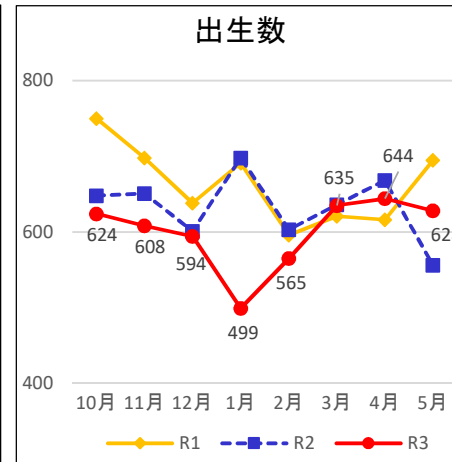
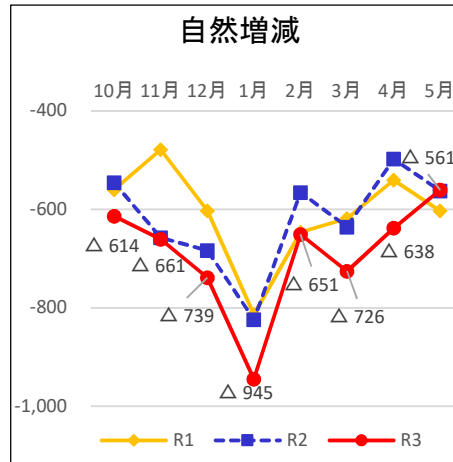
※実績は国勢調査速報を反映した試算値

自然動態

・出生数は、過去3年で最も低い水準で推移。特に1月は前年5月と6月の妊娠届の大幅減（△13.2%）の影響もあり前年比△199人の減少。

※全国的に新型コロナウイルス感染症の拡大による影響

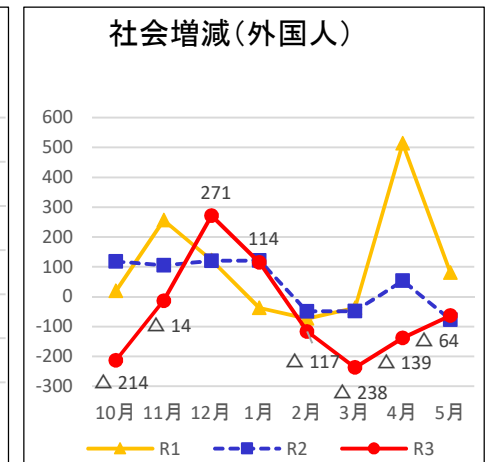
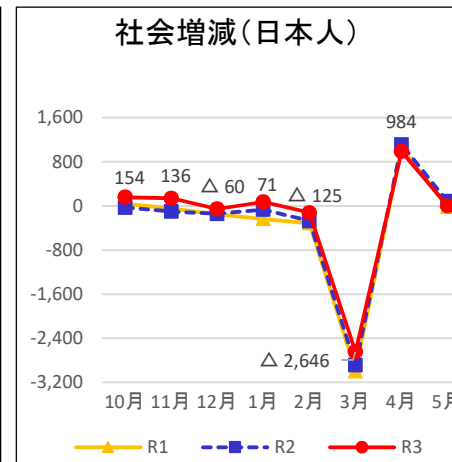
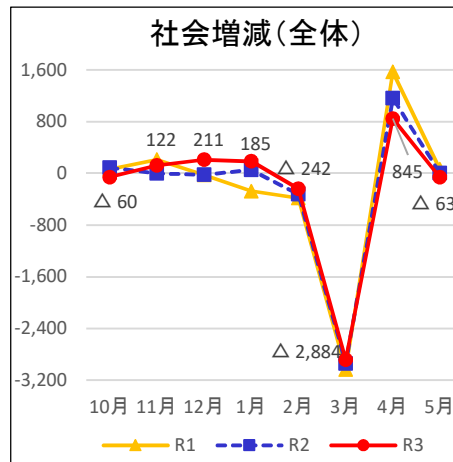
・一方、死亡数は過去2年と大きな変化がないことから、自然増減は過去3年で最も低い水準で推移。



社会動態

・日本人については、過去3年で最も高い水準で推移。特に10月と11月は100人を超える転入超過を記録するなど、8ヶ月のうち6ヶ月で前年を上回る。

・外国人については、昨年10月からの入国制限緩和で一時的に入国者が回復し、12月と1月は転入超過（APUの新入生約250人が入国）。1月14日から入国制限が強化されており、2月以降の入国は低位で推移。



未婚率と有配偶出生率

2015年は1985年に比べ、未婚率が20ポイント以上アップ。

